

## はじめに

大学生の「学ぶ意欲の欠落」と「学力の低下」の問題は、我が国の将来に対する不安定要因となっている。学生は基礎を嫌い、マニュアル主義に陥り、過程を軽視し結果を重視する傾向にあり、学ぶ意欲や自学習慣など修学姿勢の欠如、目的意識のないままでの大学入学、これに加えて社会常識が身に付いていない学生が著しく目立つようになってきたのである。しかしこれまで我々はその表層を理解するにとどまり、「学生にとって自主的・主体的に行動を起こすことが、いかに困難で勇気が必要なことであるか」という深層認識を社会全体が看過していたことは否めない。自分自身の経験や過ごした時代の価値観を金科玉条とし、「大学生なのにどうしてこの程度のことができない」「大学生だからそこまで指導する必要はない」など、学生の目線を見下ろした教育・研究指導を行ってきた自身を省みる大学教育関係者はどれほどいるのだろうか。ほとんどすべての大学がFD研修活動による教育改善に取り組んでいる事実と、積極的に参画する教員が少数である事実、この二つの事実が共存しているのが今日の大学なのである。

金沢工業大学では、学生を励まし、自信や活力、希望や目標といった知的好奇心の涵養を図り、意欲の触発と人間力の涵養を目的とした「自ら考え行動する技術者」の育成を教育目標とする教育改革を平成7年度から実施してきた。しかしこの改革を通して実感したことは、「学生は勉強が嫌いではなく勉強の仕方が分からない」「グループやチームになって活動することが苦手で自分の意見を正しく相手に伝えられない」「自分の目標とするものが明確になっていないために自信がない」、さらに「コミュニケーションを図ることが苦手である」など、これら学生の抱える問題が勉学への意識や目標の欠落につながっていたということであった。単に教育改革が教育システムの制度改革だけでは不十分であることを痛感させられたのである。

またその間、大学を取り巻く環境は我々の予想をはるかに超え、これに即応する「内容とスピード」をもった様々な教育環境（正課および課外教育プログラム・教育施設など）の改善・整備が必要となり、とくに「人間力」を重視した教育プログラムの開発とその運用に努める大学が増えている。「人間力」や「社会人基礎力」については、いまや官民ともにその重要性を説き続け「若者の人間力を高める国民会議」が発足するほどである。

本学の教育使命の最も重要なことは、入学を許可した学生を社会に貢献できる「自ら考え行動する技術者」として世に送り出すことである。本学は建学綱領の筆頭に掲げる「人間形成」を開学以来教育現場において実践してきたが、上記した環境の急速な変化にともない、これを大胆に見直す必要性に迫られていたのも事実である。そこでいま一度平成7年度に開始した教育改革の原点に戻り、ハード面では学生に「人間力」や「社会人基礎力」に示される項目で不足するものに自ら気づかせ、そして実行し身に付けるための仕掛け作り、ソフト面では教職員の更なる学生の修学支援に対する意識改革とその行動が課題となった。

ひとつの手法として、時間と労力とをこれまで以上に費やすことが要求されるものの、やはり学生と教員との距離をさらに縮めるコミュニケーションが必要であることは言をまたない。そのためのツールとして、学生が日々の修学生活の活動や成果を記録保管し、それを教員と相互確認しつつ、自己実現を支援することを目的としたポートフォリオの活用を考案し、全学規

模でその運用に乗り出したのである。しかしポートフォリオを活用することによって、特別な学習スキルが身に付くというものではない。基本的には自学自習の姿勢、生活スタイル、目的指向を確立し高めるための支援ツールであって、学生の継続的な活用と教員のフィードバック、つまり学生と教員相互の信頼関係によって成り立つものである。

現在運用しているポートフォリオには、「修学ポートフォリオ」「キャリアデザインポートフォリオ」「自己評価レポートポートフォリオ」「工学設計（プロジェクトデザイン）ポートフォリオ」「達成度評価ポートフォリオ」があり、これらを総称して「KIT ポートフォリオシステム」という。

これらのポートフォリオの中で、最初に運用したのは平成 16 年度開始の「修学ポートフォリオ」と「キャリアポートフォリオ」である。前者は「修学基礎 I II III」において「1 週間の行動履歴」と「各期の達成度自己評価」を登録し、後者は「進路ガイド基礎」において自分史の作成を通して将来の展望を考え登録するもので、これら 2 科目はともに 1 年次入学直後の全学必修科目である。

「自己評価レポートポートフォリオ」は、平成 16 年度に始まるポートフォリオ以前から運用していた「レポート提出システム」を借用したもので、修学基礎科目・専門科目および課外活動記録を登録する。

「工学設計（プロジェクトデザイン）ポートフォリオ」は、本学の教育の支柱である科目「工学設計（プロジェクトデザイン）I II」における活動記録、成果物、自己評価などを登録する。

「達成度評価ポートフォリオ」は、平成 18 年度の特徴ある大学教育支援プログラム（特色 GP）に選定された「学ぶ意欲を引き出すための教育実践」に採択されたポートフォリオで、各種ポートフォリオのデータを総括して、1 年次から 3 年次の年度末に登録する。具体的には、1 年間の反省と次年度に向けての目標を登録する。具体的には、上記の各ポートフォリオシステムの成果物をサマリー化し、これらを俯瞰して振り返る事により、自己成長の軌跡と修学の自覚・自信・反省から、技術者になる意義と意欲を高めるものである。

本書は、学生一人ひとりのポートフォリオ情報を記録・蓄積して、大学生活における向上過程を顧み、将来への展望を構築するポートフォリオの集合体である「KIT ポートフォリオシステム」に関する実践報告書である。